

胎内くぐりと胎内堂

胎内堂は、山寺の上層部の崖の斜面に建てられた、小さな平屋建ての建物です。僧侶は、岩の割れ目に架けられた古びた水平な木製の梯子を渡り、胎内くぐりと呼ばれる狭い石の洞窟を這って、この堂まで行きます。胎内とは、文字通り「子宮」を意味します。この洞窟を通り抜けることは、魂が再生することの象徴と考えられています。

この堂には、生きとし生けるものの救い主である菩薩地蔵の像が6体安置されており、かつては瞑想と苦行に使われていました。一般公開されていません。